

第8回下水汚泥有効利用勉強会を開催しました

滋賀県では、順次更新時期が訪れる汚泥処理施設について、職員の知見を深め、更新時の参考とするため、汚泥有効利用についての新技術を勉強する場として、令和3年度から職員向けの勉強会を開催しています。

令和7年8月26日(火)に第8回勉強会を開催しましたので概要を報告します。

第8回勉強会は、岐阜県の川島 PA に併設されている「自然共生研究センター」で人工河川を使ったシミュレーションの取組を学んだ後に、名古屋市上下水道局の固形燃料化施設「空見スラッジリサイクルセンター」を見学し、燃料化の方法や汚泥処理のフローについて学習しました。下水道課、南部・北部流域下水道事務所等から12名が参加しました。

自然共生研究センターでは、施設の概要や役割についてご紹介いただきました。施設では大河川、中小河川、ダムの管理に係る研究のほか、揚水装置や遊水地実験施設等を利用することにより様々な条件を再現して流域治水への応用が図られています。

空見スラッジリサイクルセンターでは、施設の概要についてご講義いただき、下水汚泥固形燃料化事業や燃料化システムのフローについて学習しました。燃料化は下水汚泥の受け入れから造粒、乾燥工程を経てふるいにかけて、製品ホッパから車両に貯留・搬出されます。下水汚泥の受け入れから搬出までの経路は密閉されているため、臭気が軽減されています。

その後、施設見学と合わせて汚泥濃縮機やスクリーブレスなど各設備の仕様についてご説明いただき、燃料化のフローや設備の役割について理解を深めました。

引き続き現場見学や講演等を通して、職員の知見を深めていきたいと考えています。



自然共生研究センターの事業紹介



施設見学の様子（空見スラッジリサイクルセンター）